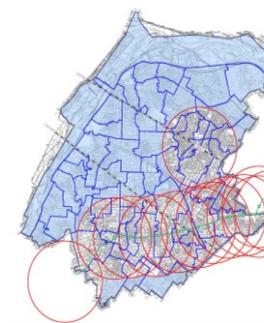


令和3年度 上里町地域公共交通活性化協議会 (埼玉県児玉郡上里町) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

資料5



町の61%が
交通不便
地域に指定

地域の公共交通等の現況

当町は、埼玉県の最北端に位置しており、広域交通網である関越自動車道、JR高崎線、上越新幹線、国道17号が町内を横断している。鉄道駅や民間バス路線がカバーしている地域は、JR高崎線神保原駅の1km圏域と県道22号線を運行している路線バスのバス停1km圏域であり、本町の約61%が交通不便地域となっている。

自動車運転免許及び自家用車の保有率は90%近くあり、自家用車への依存度が高い傾向にある。このような中、高齢者や障害者等の交通制約者の日常の買い物、通院等の移動手段の確保が課題となっている。

交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

令和2年3月には、上里町内の公共交通網の利便性を向上させ、持続可能な地域公共交通を実現させることを目的に「上里町地域公共交通網形成計画」を策定した。本計画に基づき、住民意向を反映させた移動手段の確保を図るため、「上里町地域公共交通活性化協議会」により、地域の合意形成を図りつつ、効果的・効率的な公共交通ネットワーク構築のための継続的な協議を行う。

交通施策として実施した事業の全体像の概要

平成26年度に策定した「上里町地域公共交通サービス計画」に基づき、平成28年3月より、コミュニティバス「こむぎっち号」を運行しており、同年10月からは、協議会の承認を得て本格運行している。

令和元年9月にダイヤ改定を実施し、全ルートにおいて所要時間の短縮を行った。また、支線（北部・南部）ルートは運行日を隔日に変更し、1日当たりの便数増加を実現した。令和2年3月に「上里町地域公共交通網形成計画」を策定し、令和3年3月には同計画に基づき、支線ルートのルート再編を実施した。

補助対象事業の概要

地域内フィーダー系統を確保・維持する取組みとして、平成28年3月よりコミュニティバス「こむぎっち号」を運行し、同年10月からは、協議会の承認を得て本格運行を実施している。利用者ニーズを把握するため、毎年度、利用者アンケート調査等を実施している。令和元年度は便数の増加や所要時間の短縮による利便性向上を目的としたダイヤ改定を実施した。令和3年3月には、更なる利便性向上策として、支線（北部・南部）ルートの再編を実施した。

【コミュニティバス「こむぎっち号」】

運行事業者名:株式会社協同バス

運行系統:町内全域

運行日:月曜～土曜(日曜、年末年始運休)

運行時間帯:8時30分～18時30分

運行本数:32便/日(月・火・水・木・金・土)

運行車両:4台 運賃:1乗車100円

交通計画の策定年月日

令和2年3月

協議会開催状況

○協議会の開催状況 5回開催

◎令和2年度第2回(令和2年10月12日)

- ・バス停の本移設について
- ・ルート再編に伴う調整事項について

◎令和2年度第3回(令和3年1月19日)

- ・事業評価について

◎令和2年度第4回(令和3年2月10日)

- ・バス停の移設について

◎令和3年度第1回(令和3年6月18日)

- ・上里町生活交通確保維持改善計画 他

◎令和3年度第2回(令和3年8月19日)

- ・バス停の移設について

前回の事業評価結果の反映状況

上里町内の公共交通網の利便性を向上させ、持続可能な地域公共交通を実現させることを目的に令和2年3月に策定した「上里町地域公共交通網形成計画」に基づき、定時定路線のあらゆる可能性を追求するため、令和3年3月に支線（北部・南部）ルート再編を実施した。

駅を中心としたまちづくりと連携し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現に向け、次期公共交通の運行形態についても検討していく準備をしている。

定量的な目標・効果

【評価指標・目標値】

- ・指標①：年間利用者数 18,500人
- ・指標②：高齢者無料パスの発行件数 73人

【当該指標・目標値を設定した理由】

- ①上里町地域公共交通網形成計画策定時の年間利用者数を基準値とし、町内公共交通ネットワークの充実を測るための指標として、毎年増加することを想定とした目標値を設定。
- ②高齢者による交通事故を未然に防止し、公共交通の利用を支援するため高齢者無料パスの発行件数を指標とする。

【効果】

- ・当該路線を維持することにより、交通制約者の移動手段が確保され、買い物や通院の利便性が向上する。
- ・高齢者の事故を防止するとともに、高齢者が免許証を返納しやすい環境を整備することで安心で安全に暮らせるまちづくりの推進に寄与する。

目標・効果の達成状況

【指標①】実績：13,335人

【目標を達成できなかった要因(分析)】

・前年より利用者数は増加したものの、令和3年1月、2月の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言措置中の利用者数が少なかった。その後、利用者数は緊急事態宣言措置前に戻ったものの、横倍であり目標値に届かなかった。また、令和3年3月のルート再編の影響で、ルート再編に伴う利用者の定着が十分でなかったことも考えられる。

【指標②】実績：48人

【目標を達成できなかった要因(分析)】

・高齢者無料パスの発行要件として、交通安全に関する講習を受講する必要がある。新型コロナウイルス感染症予防の観点から受講者数を制限しているため、今後は、講習会の開催回数の増加等も検討し、多くの方が受講できる環境を整えていく。

【効果】

・公共交通ネットワークを充実させ、地域住民の移動手段の確保及び交通空白地域の解消に資している。

アピールポイント

公共交通への転換のハードルを低くし、高齢者の方が公共交通の利用を意識するきっかけを提供するため、交通安全講習を受講した75歳以上の方へ「こむぎっち号高齢者無料パス」を交付した。

また、公共交通網の利便性を向上させ、持続可能な地域公共交通を実現させるため、更なる利便性向上のための取組み、及び定時定路線の更なる可能性を協議会で検討し、令和3年3月から支線（北部・南部）ルートのルート再編を実施した。それにより、速達性と1ルートあたりの増便が可能となった。

今後の改善点

目標達成に向け、利用促進を積極的に実施していく。令和3年3月のルート再編後は、ルートが複雑となったため、「わたしの時刻表」制度をフル活用し、利用者の増加となるよう取り組んでいく。

また、上里町地域公共交通網形成計画に基づき、定時定路線の総括的分析を実施していくと共に、駅を中心としたまちづくりと連携し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現に向け、次期公共交通の運行形態について、協議会で検討していく。

持続可能な公共交通を実現させるため、財源の確保として、バス車内の広告掲載についても実施していく。